

日本地衣学会

No.10

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	年頭の挨拶 / 会長.....	33
	ニュース.....	34

年頭の挨拶 New Year's Compliment

After started in 2002, our society has been much developed as seen in two issues of the journal, LICHENOLOGY and nine issues of Newsletter. The first annual meeting at Kobe was successfully over. We enjoyed a field excursion of Mt. Nyugasa, Nagano Pref. I hope that our society will have made much progress in 2003. I wish a happy new year to all of you.

Yoshimura Isao, President

あけましておめでとうございます。発足したばかりの日本地衣学会も2年目を迎えます。2002年2月17日に本学会が発足して以来、役員ならびに会員の皆様の献身的なご協力と活動により、多くの業績を残すことができました。学会誌 Lichenology は予定のページ数を超過する勢いで1号、2号を刊行し無事に2002年を終えました。ニュースレターも号を重ね、年末に9号が発行されました。第一回の大会を神戸薬科大学で国際シンポジウムとともに開催できました。野外観察会は長野県入笠山周辺で開催しました。すべて順調に予期以上の成果を上げています。お世話いただいた関係の方々、ご参加いただいた皆様に深くお礼申し上げます。特に学会の生命である学会誌の論文その他については、査読制度により質の向上とお互いの切磋琢磨を図ることができているのも喜ばしいことです。査読に当たった皆様のご尽力に深くお礼申し上げます。

神戸での第一回大会では、海外からの招待研究者を交えて、分類、生態、培養・栽培、重金属摂取、含有成分、香料など、実にさまざまな分野の方が地衣に興味を持ち、それぞれの分野から質の高い研究発表がなされ、お互いに活発な意見が交換されました。それを拝見して、新し

い学会の姿が形成されつつあると思えました。もとより小さな学会であり、発展させるには多くの困難があります。しかし、その困難をお互いの知恵と協力で乗り切っていかなばなりません。幸いにして、会員数も100名を超え、10名の名誉会員が外国の著名地衣学者より選ばれています。名誉会員からはさまざまな点でご協力とご指導をいただいています。

学会の運営はインターネットを活用してメール評議員会を開催できるようになり、お互いに忌憚のない意見を交換しています。これらの技術的な工夫によってお互いの意思疎通を図り会の運営を健全なものとしています。

日本地衣学会は皆様会員のものです。学会とは研究者の集団 (society) です。研究者として認められる最もはっきりした目安は、学会の研究発表会で口頭やポスターで発表すること、学会の機関誌 Lichenology に論文が載ることです。この活動がなければ研究者とはいえないし、その集団は学会とはいえません。さらに、学会のもう一つの使命は会員の親睦や、後継研究者の養成です。学術の普及と理解者を得ることです。このような目的には観察会やワークショップ、勉強会があります。研究者やこれから勉強して研究者となろうとするすべての会員の皆様にとって向上の場を提供できる学会にしなければなりません。皆様のご精進・研鑽を願ってやみません。

年頭にあたり会員の皆様のご健康とご精進を祈り、併せて今後の地衣学ならびに日本地衣学会の発展を祈願いたします。

2003年1月1日 会長 吉村 庸

ニュース News and Announcements

箱根 青空地衣教室(初級対象)のご案内

下記の要領で開催します。参加ご希望の方は下記申し込み先まで連絡して下さい。

記

内容：箱根の山地に見られる地衣類を観察します。今回は原田浩講師が千葉県立中央博物館企画展「驚異の地衣類」準備のため来られないため、初心者向けの観察会を予定しています。

日時：2003年2月2日(日曜日)

集合 12:40(箱根登山バス箱根町バス停)

場所：やすらぎの森(昨年6月22日の地衣類観察会開催場所)

会費：200円

行程

12:40 箱根登山バス「箱根町」バス停集合。「原色日本地衣植物図鑑」を抱えている人に声をかけてください。

小田原駅東口の箱根登山バスのりば3番「元箱根・箱根町行き」で所要時間約1時間。毎時7分と37分に発車。

伊豆箱根バスの場合、「元箱根・関所跡・箱根町線」で「関所跡」下車、伊豆箱根バス停から、進行方向に向かってさらに200m(箱根ホテルを越えて)歩く。

料金はいずれも1150円。

車でおいでの方は箱根町バス停の西に無料駐車場があります。

昼食を済ませて集合してください。

13:00「やすらぎの森」で昨年の復習を兼ねて山地の地衣類を観察します。

15:30 箱根町バス停で解散

持ち物：暖かい服装で、雨具を忘れずに。できれば、10~20倍のルーペ、「校庭のコケ」(全国農村教育協会発行¥1905)を用意されるといっそう楽しめます。

申し込み、現地案内

安斉唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp

Fax03-6780-8818, 電話ゼルグブランニング
044-900-8818

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp

当日の緊急連絡先

安斉唯夫 携帯電話 0902-759-7872

木下靖浩 携帯電話 0901-264-9858

主催：日本地衣学会 地域活性化委員会 関東

(安斉唯夫：地域活性化委員長)

富士山頂の“ダイダイゴケ”

本誌7号p.26「富士山頂地衣類調査記」の中で、富士山頂3776mで“ダイダイゴケ属らしき黄色い痂状地衣”を見つけたと述べたが、その後の調べてロウソクゴケモドキ *Candelariella vitellina* であることがわかった。8合目辺りから、登山道や山小屋、祠の周りの積み石がオレンジ色になっているのをしばしば目撃した。これらもおそらく全てがロウソクゴケモドキであろう。また、それよりもやや目立たない、灰色がかかった黄緑色の痂状地衣も同じようなところによく見られた。こちらはチャシブゴケ属 *Lecanora* の仲間である。

(原田浩：千葉県立中央博物館)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌7号26ページに。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see no.7, p.26 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 10号

発行日：2003年1月10日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内